

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02823

研究課題名(和文)幕末維新时期における唐通事の英語学習と西書翻訳に関する書誌学的研究

研究課題名(英文)A bibliographic study of western books translated by Chinese interpreters during the late Edo Period

研究代表者

朱 鳳 (ZHU, Feng)

京都ノートルダム女子大学・国際言語文化学部・教授

研究者番号：00388068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、幕末維新时期に活躍していた唐通事が日本における英語学習と西書翻訳に寄与した史実に注目し、日本を初め、アメリカ、イギリスの図書館に散在している唐通事の英語学習に関する資料調査と資料整備を目的とした。4年間の研究期間中に、国内外の図書館に所蔵している唐通事の西書翻訳に関連する図書資料を調査し、整理と分析した上、国内外の学会で学術発表を多数行った。その発表論文も研究成果として国内外の学術図書、雑誌に掲載された。また、公開講座、ホームページなどを通して、一般社会への研究成果の発信と公開にもつとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、幕末維新时期に活躍していた唐通事、特に何礼之(1840-1923)の英語学習と西書翻訳に焦点をあてた。これらの翻訳書を言語的に分析し、幕末明治期の政治、法律、経済における漢字翻訳語の創出と確立の過程、つまり日本語が西洋概念を受容した際の唐通事の貢献を見いだせる。

さらに、唐通事の英語学習と西書翻訳に関する史料を整理、考察が実現したことによって、近代西洋文化の受容の諸相に関する東西文化交流史、近代語彙史、英学史、翻訳史などの研究領域に対しても有意義な書誌情報を提供できるのみならず、一般社会にも日本の近代化における唐通事の貢献と役割を再認識することができる。

研究成果の概要(英文)：This research mainly concentrated on the historical facts that the Chinese interpreters(Totsuji) had done a lot of contributions to English studies and Western book translations during the late Edo Period.

During this four years, we have researched some libraries in Japan and abroad, which hold some rare books concerning Totsuji's activities. After analyzing all these materials, we have made a lot of presentations in the World Scholarly Association for the History of Chinese Language Teaching and some international symposiums, and published some papers on scholarly books and journals. Meanwhile, through the public lectures and internet, we tried to deliver and open our research results to Japanese society.

研究分野：日中近代語彙交流史

キーワード：唐通事 漢字翻訳語 西書翻訳 宣教師 東西文化交流

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は幕末明治期の近代化の中における唐通事の英語学習、西書翻訳に関連する国内外の書物の発掘、整理、考察することで構築されていた。その構想は次の研究背景から始まるものである。

(1) 研究開始当時、日本近代化における唐通事の位置づけに関する先行研究は少なかった。唐通事の英語学習について、いくつかの先行研究があげられる。古賀十二郎の『徳川時代に於ける長崎の英語研究』(九州書房、1947年)が最も早期的且つ資料豊富なものである。また、大久保利謙の歴史著作集5『幕末維新の洋学』(吉川弘文館、1986年)にも「幕末英学史上における何礼之-とくに何礼之塾と鹿児島英学との交流-」という論文が載っている。さらに近年の研究成果として、許海華の論文「長崎唐通事何礼之の英語学習」(『関西大学東西学術研究所紀要』第44号、2011年)と木村直樹の著書『<通訳>たちの幕末維新』(吉川弘文館、2012年)もある。これらの先行研究は、東西文化交流史あるいは日本英語学史の視点から唐通事たちの英語学習を捉えることに留まっていて、唐通事の英語学習の過程に使われた教材や師事した宣教師に関する史料の書誌的整備は進んでおらず、唐通事の西書翻訳についての研究は皆無であった。

(2) 幕末維新时期の日本における西洋知識の導入と近代化の過程における蘭学者(洋学者)と蘭通詞の果たした役割に関する研究成果は大いにあげられている中、唐通事が日本の英語学習と西書翻訳に大きく寄与した史実に関する研究はまだ少ない原因は二つある。第一は、その当時蘭通詞と比べ、唐通事の英語学習者がわずかであったため、研究対象としての注目度が低いからである。第二には、現在当該研究が洋学や中国語学研究者にとって、個々の研究領域を超えており、研究が困難であるため、着手されにくいことにある。

上記の背景を踏まえて、申請者の研究グループは唐通事、宣教師の外国語学習と翻訳活動に関する専門家で構成し、唐通事の英語学習と翻訳活動の書誌的研究に焦点をあて、東西文化交流史、近代語彙史、英語学史、翻訳史などにおける学際的な研究を行いたいと意図した。

2. 研究の目的

本研究の目的として研究当初から2つをあげている。

(1) 幕末維新时期に活躍していた唐通事が日本における英語学習と西書翻訳に寄与した史実に注目し、先行研究を踏まえた上で、日本を初め、アメリカ、イギリスの図書館に散在している唐通事の英語学習に関する資料調査と資料整備を目的とする。具体的にいうと、主に日本とアメリカ、イギリスの図書館に散在している唐通事に関する公的文献、私的日記、英語学習教材及び唐通事が師事した在華宣教師に関する史料をまとめて整理、分析し、唐通事の英語学習に関する基本的な資料基盤を確立したい。その上で、唐通事が翻訳した西書を精読し、特に漢字翻訳語に焦点をあて、言語媒体としての漢語の役割を見出す。この二つの作業を通して、最終的に唐通事の英語学習と西書翻訳の全貌を明らかにしたい。

近年日本と中国において東西文化交流に関する研究が盛んに行われている。本研究の対象である唐通事は日本の西学東漸に少なからぬ貢献した人たちである。唐通事の関連資料の基盤づくりと彼らの西書翻訳書を言語的に分析することを通して、日本英語学史と近代日本語学史研究における中国語資料と在華宣教師の重要性を提唱するのも研究目的のひとつである。

3. 研究の方法

本研究は次の研究方法をもって、実施した。

(1) 日本、アメリカ、イギリスの図書館に散在している唐通事の英語学習に関する資料を順次調査し、資料を時系列に整理する。研究分担者、協力者と分担し、日本、アメリカ、イギリスの図書館にある資料を閲覧し、必要な資料をコピーあるいは写真撮影した上で、整理、分析する。

(2) 次に、幕末維新时期における唐通事の英語学習と西書翻訳活動に関する全体像を原典資料の視点から研究、解明する。具体的にいうと、代表者、分担者の担当部分に分けて、言語学、翻訳史、東西文化交流史、日中語彙交流史などの異なった視点から唐通事の言語学習(英語、中国語)、西書翻訳における漢訳語の特徴、宣教師との交流などを史料に基づいて学際的に考察する。

4. 研究成果

本研究課題において、主に次の研究成果があげられる。

(1) 日本内外の図書館における唐通事の西書翻訳関連資料調査と収集

研究期間の1年目(2015年)において、代表者と分担者は国内外の図書館に出かけ、唐通事に関連する日本語、中国語、英語の資料を収集、整理した。まず、千葉県立佐倉高等学校と杏雨書屋(公益財団法人武田化学振興財団)の二カ所におい

て、唐通事にも、蘭通事にも大きな影響を与えたと言われるモリソンの英華字典の抄本の閲覧と写真撮影を行った。これらの抄本は宮崎市高鍋町図書館に所蔵された抄本とともに、稀覯な資料である。本調査に基づいた研究発表と学術論文発表は、これらの資料の学術的な利用価値を明らかにした。また、東京大学社会科学研究所図書館に所蔵する「何礼之文書」(マイクロ資料)の閲覧と関連部分の複写を行った。何礼之は唐通事の西書翻訳活動の中心的な人物であったため、この調査で得た資料は本研究の遂行に指南的な役割を果たした。さらに、2016年から2019年において、大英図書館と電子資料アーカイブを利用し、何礼之の翻訳書『政治略原』と Andrew W. Young(1802-1877)の原書 *First Lessons in Civil Government* (1846)、*The Government Class book* (1865)の書誌資料調査、何礼之の翻訳書『世渡りの杖』と Francis Wayland(1796-1865)の原書 *The Elements of Political Economy*の書誌資料調査、翻字整理も行った。特に何礼之の手写体の翻訳書における翻字整理は、本研究領域における初の試みで、次の研究のきっかけにもなった意義の大きい成果だと考えられる。この作業は未完成であるが、これからも新しい研究課題(「明治維新时期における漢字翻訳語の歴史的・言語的構造に関する多角的研究」、2020年度～2024年度)のもとで、翻字整理の成果を出版することを視野に置き、引き続き調査整理する予定である。

(2) 唐通事の漢字翻訳語(漢訳語と漢字語)における中国文化の影響への立証

唐通事の英語学習と西書翻訳の代表者である何礼之の翻訳書『政治略原』を考察し、何礼之が漢字翻訳語につけた「細注」と「左訓」の二つの側面から、唐通事の漢字翻訳語に中国文化の影響を受けたことを明らかにした。

まず、『政治略原』にある「細注」(一部)への考察である(表1)。

表 1

漢字翻訳語	細註 (注：漢字翻訳語に付しているカタカナ語)	原書の英語
立君	モナルキー	Monarchy
独裁	アブソリュートモナルキー	absolute monarchy
貴族合議	アリトスクラシー	Aristocracy
民主政治	デモクレシー	Democracy
上局、清華院	ハウス オフ ロルツ	house of lords
下局、衆庶院	ハウス オス コムムンス	house of commons
翻案	レウエルス	Review
行衙	シルクイト コールト	circuit court
高衙	シュペリヨル コールト	superior court
越訴の衙	コールト オフアッピール	court of appeal
保状	レコグニザンス	Recognizance
保領	ペイル	Bail
聴訟司	ポロセキューチング アトロニー	Prosecuting attorney

漢字翻訳語についているカタカナ語は英語の発音を示しているもので、一見他の日本人の翻訳法と大きな違いがないように見えるが、その漢字翻訳語に唐通事の独自の性質が含まれている。

上記の表にある漢字翻訳語を漢訳語と漢字語とに分けることができる。漢訳語とは西洋の新しい概念を訳すために創出された漢字訳語を指す。それに対して、漢字語は、たとえ新しい概念の翻訳語として使われていると言っても、在来の漢字語を利用し、新しく創出したものではない。たとえば、表にある「absolute

monarchy 独裁、aristocracy 貴族合議、democracy 民主政治、republic 共和、monarchy 立君、」などは漢訳語に分類できるが、「house of lords 清華院、house of commons 衆庶院、review 翻案、circuit court 行衙、superior court 高衙、court of appeal 越訴の衙、bail 保領、prosecuting attorney 聴訟司」などは漢訳語より漢字語の性格が強い。日本人の馴染みの薄い漢字語に対して、何礼之が考案した独自の方法は「左訓」である。

「左訓」とは表 2 のように示したものである。

表 2

左訓	漢字語	左訓	漢字語
メシフダ	召牌	ミトトケ	照管
メシトリカキ ツケ	捕票	カリノヤク ニン	管事司
ウケアイ	保領	シメククリ	管轄
ショウニン	眼證	ミイツクリ	保険
カキツケ	牌票	クミアイ	合夥

「召牌」「牌票」「捕票」「眼証」「照管」「管事司」などの多くの言葉は、むしろ日本語漢字語ではなく、中国語漢字語である。つまり、唐通事の何礼之は、日常的に中国語通訳業務の中で使われている漢字語を積極的に西書翻訳に取り入れていることが明らかである。これらの漢字語を一般の読者に理解してもらうために、彼は和訓と言う解釈を付けるという方法を取った。実はこれらの漢字語は唐通事たちが日頃の通訳業務に使っていた『譯家必備』『鬧裏鬧』などの中国語資料によく出てくる語彙である。

本研究は、唐通事が翻訳した漢字翻訳語（漢訳語と漢字語）に注目し、何礼之の西書翻訳に多くの中国語漢字語彙が使われている事実から、唐通事としての中国文化背景が彼の翻訳に影響を与えていたことを立証することができた。何礼之が西書翻訳に使った中国語に由来する漢字語の多くは、明治以降殆ど日本語として成立していなかったとは言え、日本人にとって西洋文化の啓蒙教育時期において、その翻訳方法は、確実に有効な手段の一つであったと言える。また、日本人の翻訳者と違って、和製漢語を作らず、在来の中国語の漢字語彙を利用するのも唐通事の漢字翻訳語の特徴の一つである。

（3）唐通事の西洋資料を通じた中国語学習への研究

唐通事の西書翻訳研究の周辺研究の一つとして、唐通事の西洋資料を通じた中国語学習への研究も行った。特に何盛三（養祖父は何礼之である）の『北京官話文法（詞編）』およびそのいくつかの版本を研究資料として、何盛三の官話観（中国語観）の分析を行った。その分析の過程の中で、彼は中国語学習にドイツ人の文法書（Heyse の *Deutsche Grammatik* 『ドイツ語文法』、1908、Krause の *Deutsche Grammatik für Ausländer* 『外国人のためのドイツ語文法』、1909）や在華宣教師エドキンス（Joseph Edkins）の主著たる中国語文法書 *A Grammar of the Chinese Colloquial Language* を利用したことを判明した。幕末明治期に日本に在住の唐通事の後裔たちの中国語観に西洋人が著した文法書が影響を与えた。唐通事の東西文化交流への貢献のひとつを明らかにできた。

（4）公開講座、ホームページによる研究成果の社会一般への公開

本研究は学術的な研究を行ったのと同時にその成果を社会一般へ公開することにも努めた。2019年3月に研究代表者と研究分担者2名は、京都ノートルダム女子大学で一般公開された「研究プロジェクト発表会」において、「幕末明治期の西書翻訳と唐通事」というテーマのもとで、パネル発表を行った。発表終了後、来場者とディスカッションを展開したり、質問を受けたりして、学術的な研究成果を一般の国民へ分かりやすく伝える役割を果たした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 朱鳳	4. 巻 第4期
2. 論文標題 《蘭英漢字典》抄本考証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際漢学』（外語教学与研究出版社、北京）	6. 最初と最後の頁 p.174-p.181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 千葉謙悟	4. 巻 27
2. 論文標題 何盛三の中国語認識－日本より見た20世紀前半の「官話」とその変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代中国と世界』中央大学政策文化総合研究所研究叢書 中央大学出版部	6. 最初と最後の頁 p.31-p.47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奥村佳代子	4. 巻 30
2. 論文標題 唐通事の白話文－日本語作品の翻訳を中心に－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立台湾大学日本学研究叢書『17世紀の東アジア文化交流－黄檗宗を中心に－』	6. 最初と最後の頁 273-298
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 塩山正純	4. 巻 下巻
2. 論文標題 『北京官話全編』に記述された児化語彙について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西大学出版部 内田慶市編『北京官話全編の研究』	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朱鳳	4. 巻 第50輯
2. 論文標題 何礼之とその翻訳書について－『政治略原』の漢字翻訳を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『東西学術研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 127-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村佳代子	4. 巻 第10号
2. 論文標題 話された言葉として書かれた中国語－18世紀前半中国の供述書と朝鮮の問答記 録の言葉	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 119-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村佳代子	4. 巻 37号
2. 論文標題 大田南畝旧蔵「訳阿州孝子文」について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 關西大學中國文學會紀要	6. 最初と最後の頁 37-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村佳代子	4. 巻 第9号
2. 論文標題 18世紀長崎における口頭中国語 「初進館」の内容に基づく『譯家必備』再考	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 朱鳳
2. 発表標題 何礼之と宣教師の交流について
3. 学会等名 中国近世語学会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田慶市
2. 発表標題 明治維新期の英語学習と何礼之について
3. 学会等名 中国近世語学会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩山正純
2. 発表標題 『世渡の杖』の翻訳の概要と背景
3. 学会等名 中国近世語学会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊伏啓子
2. 発表標題 『世渡の杖』の翻訳 - 生活用語を中心に
3. 学会等名 中国近世語学会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥村佳代子
2. 発表標題 『世渡の杖』の翻訳 - 唐通事資料との比較
3. 学会等名 中国近世語学会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 朱鳳
2. 発表標題 幕末明治期の西書翻訳と唐通事－漢字翻訳語をどう読むか
3. 学会等名 京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩山正純
2. 発表標題 幕末明治期の西書翻訳と唐通事－『世渡の杖』の翻訳と出版
3. 学会等名 京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村佳代子
2. 発表標題 幕末明治期の西書翻訳と唐通事－江戸時代の中国語通訳者たち
3. 学会等名 京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朱鳳
2. 発表標題 何礼之とその翻訳書について－『政治略原』を中心に
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会第八回国際シンポジウム「東アジア交渉学の新しい歩み」(国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塩山 正純 (SHIOYAMA Masazumi) (10329592)	愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授 (33901)	
研究分担者	奥村 佳代子 (OKUMURA Kayoko) (10368194)	関西大学・外国語学部・教授 (34416)	
研究分担者	内田 慶市 (UCHIDA Keiichi) (60115293)	関西大学・外国語学部・教授 (34416)	
研究分担者	千葉 謙悟 (CHIBA Kengo) (70386564)	中央大学・経済学部・教授 (32641)	
研究分担者	伊伏 啓子 (IBUSHI Keiko) (40759841)	北陸大学・国際コミュニケーション学部・講師 (33304)	